技術と経営をつなぐ

Some thoughts on business carriers based on technology background

吉澤 正樹 （経営共創基盤）

Masaki Yoshizawa (Industrial Growth Platform Inc.)

E-mail: m.yoshizawa@igpi.co.jp

世の中がどのように成り立っているのか、物理＝「物（もの）の理（ことわり）」に興味を抱いた筆者は、大学で電子物理を学び、当時日本企業が市場や学会で大きな存在感を発揮していた半導体を研究対象に選びました。大学院修了後は大手電機メーカーに入社、MIT に留学させてもらい、博士号も取り、会社を代表して海外の研究機関に派遣され、論文や特許が国内外で表彰された経験もある。こうして 10 年以上研究一筋で生きてきた研究者が、なぜ経営に興味を持ったのか。きっかけとなったのは、私のメンターともいえる日本を代表するグローバル企業の経営者の一言でした。『これからの日本には、技術と金融を理解し、事業を経営できる人材が求められている』

近年、日本のエレクトロニクス産業の地盤沈下が叫ばれていますが、それは必ずしも研究開発のレベルが落ちたわけではなく、技術シーズを市場ニーズにつなげる仕組みや人材が足りていないことも原因のひとつです。

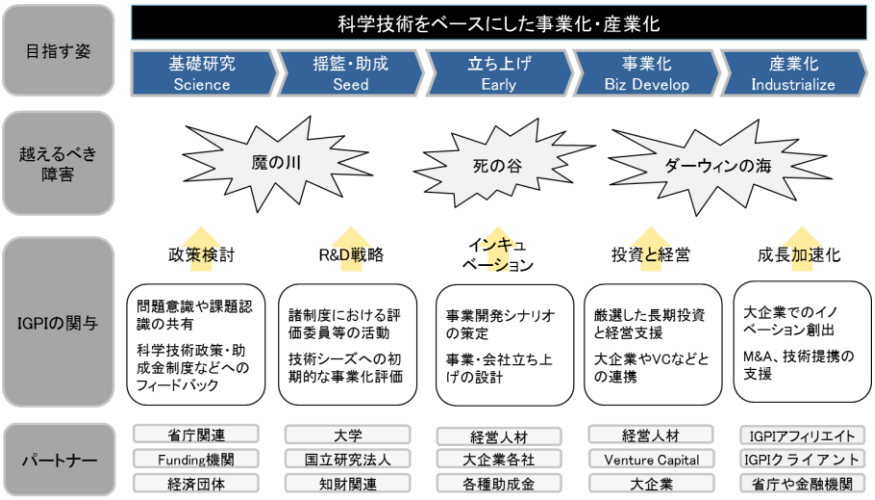

図１　科学技術をベースにした事業化・産業化において必要な機能のつながり

そうしたボトルネックを解消すべく、経営プロフェッショナルとなることを志して、これまでに大手企業の研究所のビジョン策定・組織の再構築や、研究開発部門の分社化、科学技術ベンチャーへの投資と事業立ち上げ、半導体事業の買収などに関与してきました。『これまで研究者だったのに、全く畑違いの経営の分野に転身して、戸惑いませんでしたか』と聞かれることがあるのですが、リソースを確保し、仮説を立てて実行、結果が予想と異なる原因を探り、新たな仮説を考え、というプロセスは経営も研究開発も同じです。科学技術に立脚した次世代の産業創出をこの手でリードしたいと考えている技術系バックグラウンドの皆さんに、技術と経営を橋渡ししてきた個人的な経験を共有したいと思います。

© 2016年 応用物理学会